

自在R連続基礎

〈プレキャスト・ガードレール&
ガードパイプ連続基礎ブロック〉

受注
生産 NETIS掲載終了
CB-050040-VE

車両の進入制御や車線変更、風荷重による転倒防止などの仮設用
置き基礎用として緊急時に対応出来る連続基礎ブロックです。

1999年「車両用防護柵標準仕様・同解説」「道路土工・擁壁工指針」の
基準改定に伴い、自動車の衝突荷重を考慮した設計が明記されました。
ガードレール自在R連続基礎ブロックは、道路の安全及び道路環境の改
善の為、緊急的に多く施されるガードレールやガードパイプの現場打
ち連続基礎をプレキャスト製品化し、緊急工事に対応することが出来ま
す。この製品は自転車のチェーンをイメージし、現場に合ったカーブに
自在に対応できるプレキャスト連続基礎ブロックです。

●特長

1.安全性

連続した基礎として衝突に対して抵抗するため安全性が高くなり
ます。

2.施工性

設置間隔が決まっているため施工が容易です。
丸みを帯びた端部形状によりカーブ施工が容易に行えます。

3.リサイクル

ボルト連結のため道路の修繕時に撤去・移設し再利用が出来ます。

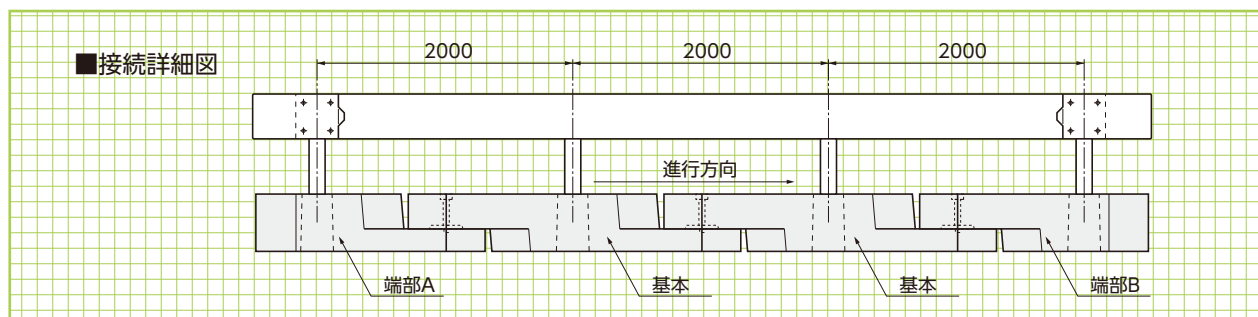
埋
設
使
用



置
き
式
使
用

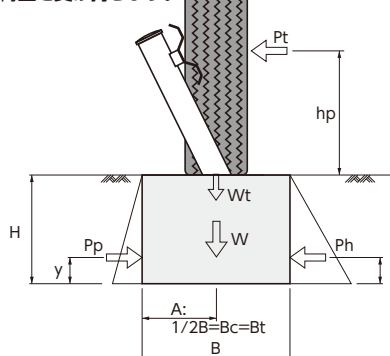


接続詳細図



安定計算
埋設使用

現場打の連続基礎は、目地の関係で10mにて
安定計算を行います。自在R連続基礎では延
長方向で衝突荷重を受け持ちます。



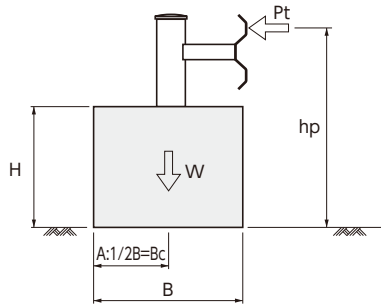
設計条件

衝突高さ $hp=0.6m$
コンクリートの単位体積重量 $\gamma_c=23kN/m^3$
土の単位体積重量 $\gamma_t=19kN/m^3$
土の内部摩擦角 $\phi=30^\circ$
基礎地盤の摩擦係数 $\mu=0.6$
基礎地盤の許容支持力 $300kN/m^2$
設計車両 T-25
受働土圧 考慮する

埋設使用参考延長一覧表 (安全率1.5)

衝突 条件	衝突 荷重		現場打	自在R連続基礎	
			連続基礎	A型 630×450	B型 400×450
A 種	55 kN	断面			
計算上の必要延長			10m	29m	
B 種 C 種	30 kN	断面			
計算上の必要延長			10m	15m	28m

独立式の基礎では安定計算が不可能。連続基礎とすることで安定計算を可能に。



置き式使用参考延長一覧表(安全率1.5)

条 衝 突 件	荷 重 突		自在R連続基礎	
			A型 630×450	B型 400×450
A 種	55 kN	断 面		
計算上の必要延長			26m	
B 種	30 kN	断 面		
計算上の必要延長			14m	33m

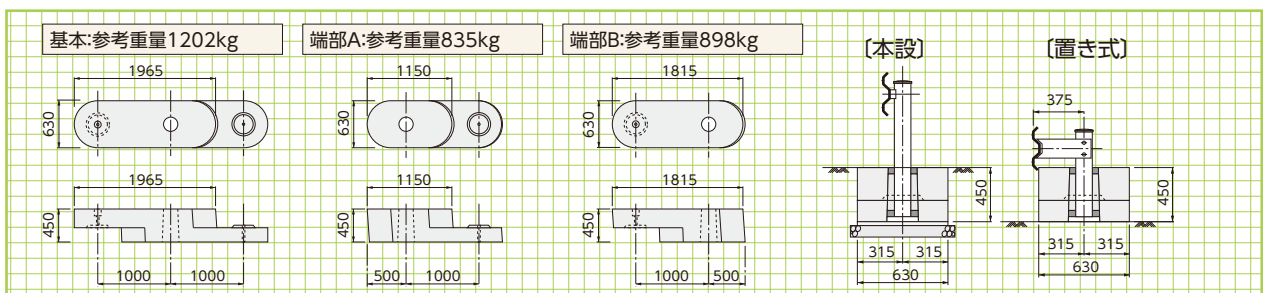
▼九州自動車道床版取替え工事



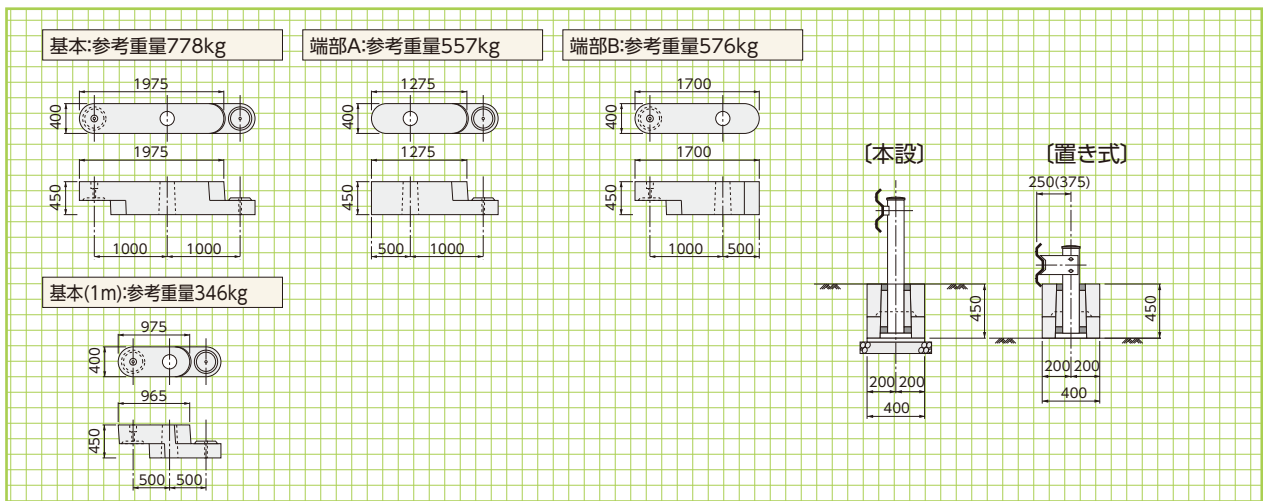
▼薩摩川内市



■A型(630×450) 支柱間隔2m



■B型(400×450) 支柱間隔 2.0m、1.5m、1.0m



基本形状図

擁壁類

河川関連

道路関連

管渠類

側溝類

農用関連

貯水槽関連

景観関連

組合製品

その他

126.